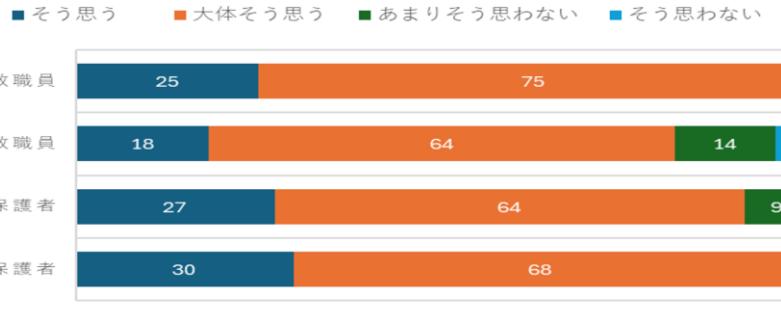


令和6年度 後期 学校評価アンケート集計結果

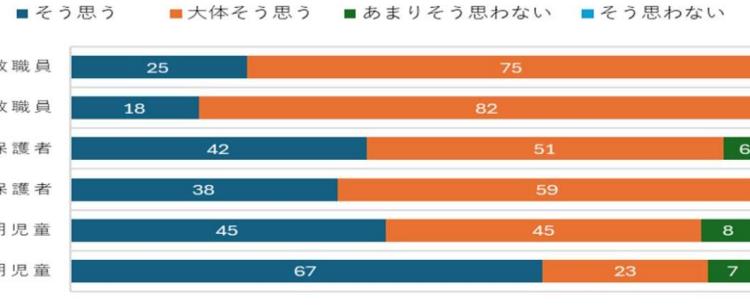
令和6年8月末～1月末までの児童の様子や学校の取組を見ていいただき、2月初めに、児童・保護者・教職員を対象に学校評価アンケートを実施しました。
ご協力ありがとうございました。主に前期と後期の結果を比較して考察しました。尚、①⑧⑪⑫⑬⑭⑮については児童対象の質問項目はありませんので表示していません。

①基本的生活習慣が身についている



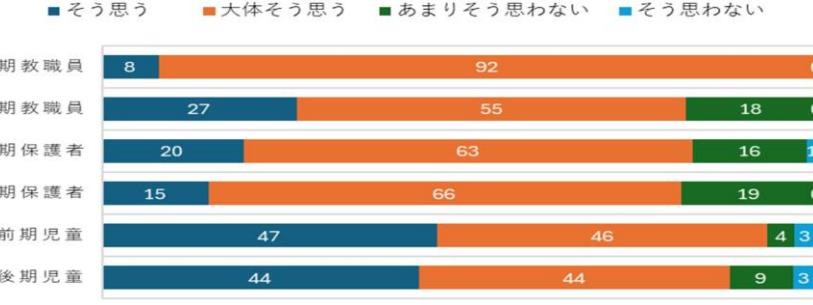
保護者、教職員共に概ね身についていると回答しています。ただ、前期と比べ、後期はあまり身についてないと回答している教職員の割合が高くなっています。それには、忘れ物が多いことが考えられます。学習に必要なものを忘れず持つくるように習慣づけていきたいです。

②学校へ行くのを楽しみにしている



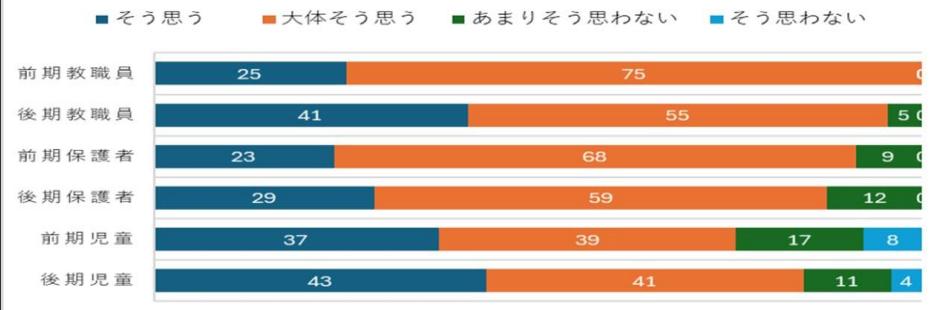
前期と比べると後期は、保護者で「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が増えており、児童と教職員は前期後期共に同じ割合の回答になっています。今後も全校児童が学校に行くのを楽しく感じられるような取組をしたり、家庭との連携を図ったりしていきます。

③人の話をしっかりと聞いている



前期と比べると後期は、児童、保護者、教職員共に「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が低くなっています。人の話を聞くことは、話し手のことを大切に思うことにもつながってきます。今後も、最後まで人の話が聞けるよう、日々の学校生活や学習の中で取り組んでいきます。

④自分の思いや考えを話している



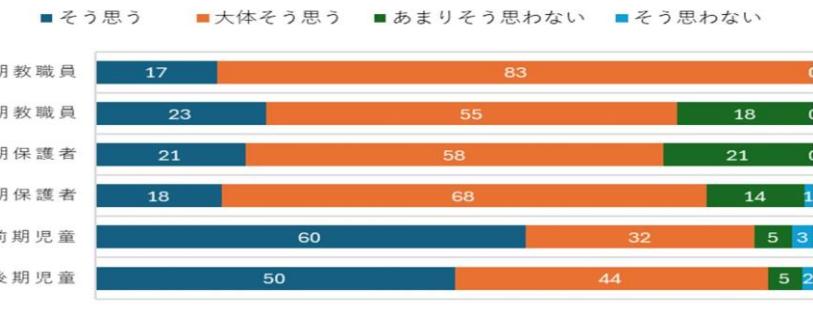
前期と比べると後期は、児童の回答で「そう思う」「大体そう思う」の割合が増えており、自分の思いや考えを話すことができてきていると感じていることが分かります。その反面、保護者と教職員は前期より後期の方ができていないと感じていることが分かります。今後も引き続き、自分の思いや考えを話しやすいよう安心できる学級経営をしていきます。

⑤わかるまで学習に取り組んでいる



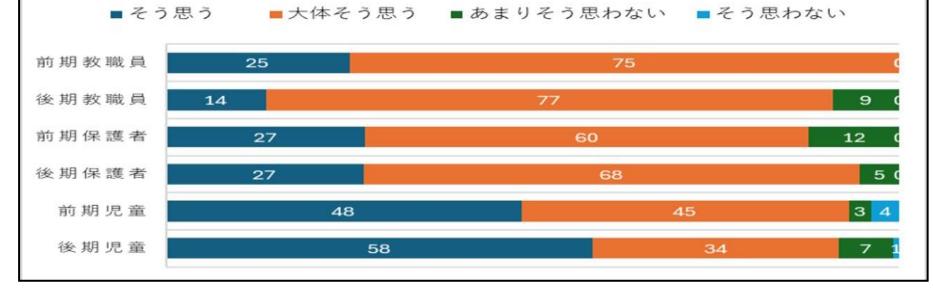
前期と比べると後期は、児童、保護者共に「そう思う」「大体そう思う」の割合が増えています。今後も粘り強く理解できるまで学習に取り組めるよう、授業中や補充の時間などの個別最適な指導をしていきます。引き続き、保護者の方からも家庭学習での声かけなどのご協力をよろしくお願ひします。

⑥気持ちのよいあいさつをしている



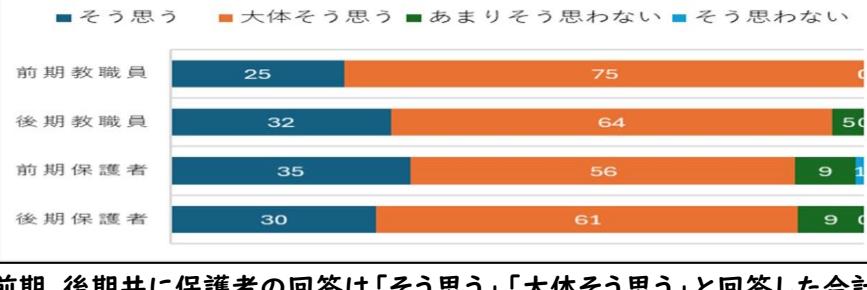
前期と比べると後期は、児童、保護者共に「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が増えています。気持ちのよい挨拶とは、「自分から先に」「元気な声で」「笑顔で」挨拶をする姿です。教職員が自ら気持ちのよい挨拶をしお手本になれるようにしていきます。

⑦自分も人も大切にする心が育っている



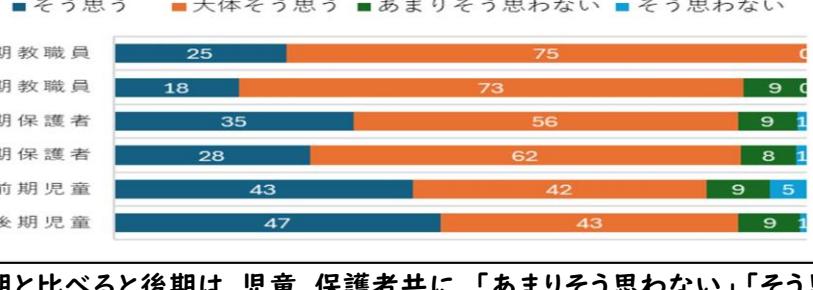
前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が増えており、児童も「そう思う」の回答の割合が増えています。人のことを大切にするには、自分の心が満たされていることが大事だと考えます。家庭だけでなく学校でも自己肯定感を高められるよう、成果だけでなく、過程を見取り、ほめ、子どもたちが、自信をもてるようにしていきます。

⑧安全に気をつけて生活している



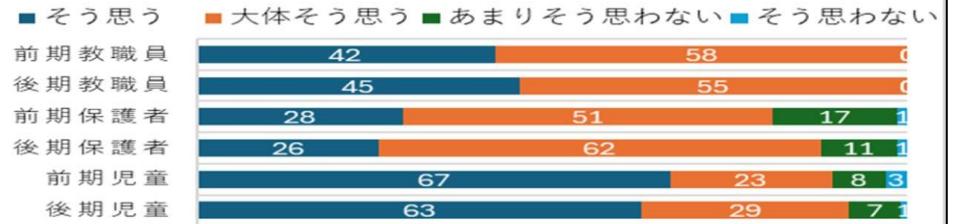
前期、後期共に保護者の回答は「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が同じでした。ただ、前期と比べ後期は「あまりそう思わない」と回答している教職員の割合が高くなっています。京極学習で防災についての学習をしたり、定期的な保健指導を行ったりして成果も見られますが、廊下を走る、上靴のかかとを踏んでいる、運動場での遊び方などで気になる場面があり、今後も指導していきます。

⑨学校や社会のルールを守っている



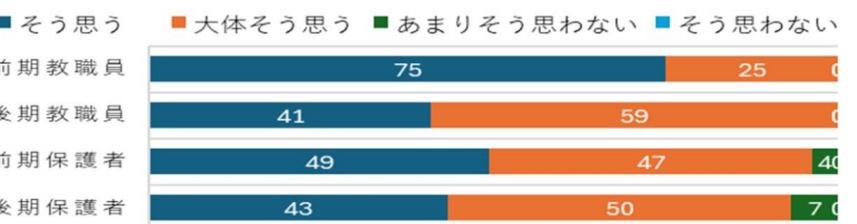
前期と比べると後期は、児童、保護者共に、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している割合が減っています。子どもたちの中では、学校のきまりやルールを守っていると感じていることが分かります。ただ、⑧でも述べましたように、教職員の回答は、「あまりそう思わない」の割合が増えていますので、児童との意識の差が見られます。引き続き、ルールはなぜ守らないといけないのかを子どもたちと考えていきます。

⑩地域の行事など地域の学習に興味をもっている



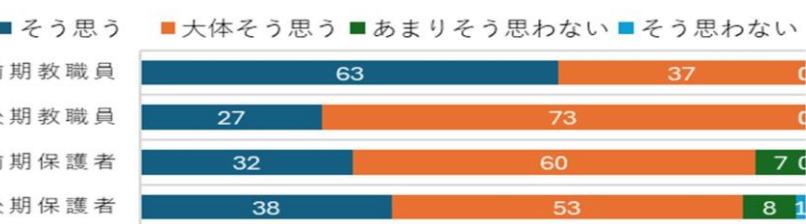
前期と比べると後期は、児童、保護者共に「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が増えています。低学年での生活科の昔遊びや3年生以上の京極学習などで、地域の方のご協力をいただいている成果のあらわれだと思います。今後もご協力よろしくお願ひします。

⑪学校は、児童のがんばりやよいところを認めている



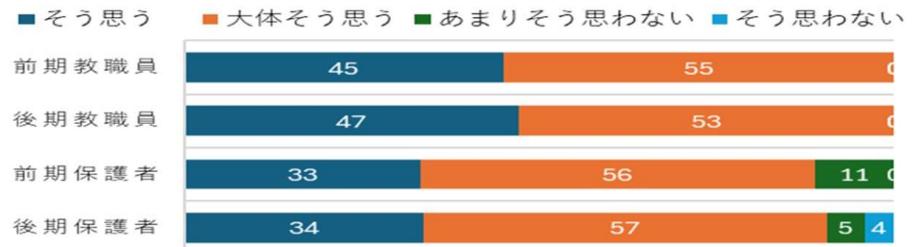
前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が低くなりました。学習中だけでなく、係活動や委員会活動、学校行事、また、清掃時間など学校生活でのあらゆる場面で子どもたちが頑張っているところや良いところをほめ、伸ばしていきます。

⑫学校は、困りごとに気付き、話を聞いたり対応したりしている



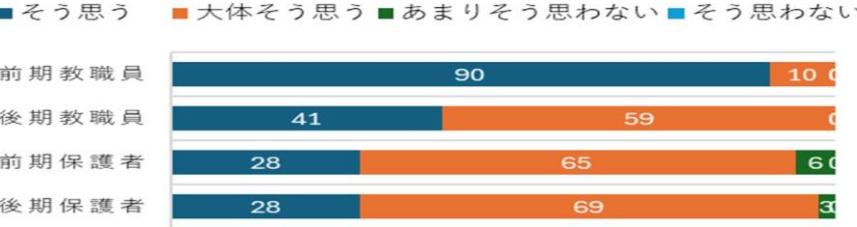
前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が少し低くなりました。保護者からの相談や要望があった時に適切かつ迅速に対応できるように、教職員間での情報共有や相談などが確実に実行できるように取り組んでいきます。

⑬学校の様子がわかる



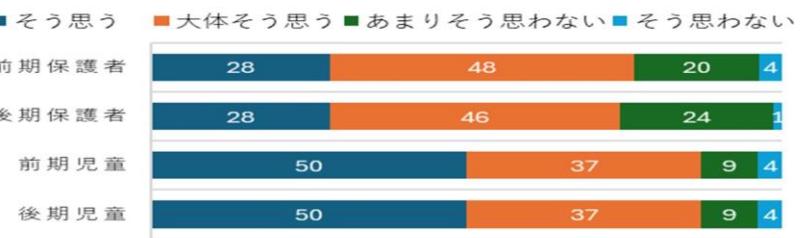
前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」の割合が高くなりました。学校では、ホームページや学校だよりなどで、学習や行事の様子を伝えてきました。ただ、学年によって偏りがあるなど、課題はありますので、次年度に向けて、学校ホームページだけでなく、すぐーるなどでも学校での様子を配信していけたらと思います。

⑭学校は、意欲や過程をほめている



前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」と回答した合計の割合が高くなりました。子どもたちの取り組んでいる過程を認め、ほめることで、次への意欲とつながっていくことと考えています。今後も、意欲的に取り組んでいけるよう、どの学習、取組でも振り返りを大切にし、次時への学習や取組につなげていきます。

⑮デジタル機器の使用ルールを決めている/守っている



前期と比べると後期は、保護者の回答で「そう思う」「大体そう思う」の割合が低くなりました。児童は前期、後期共に同じ回答でした。学校では、2学期にゲストティーチャーに来ていただき、4、5、6年生を対象に情報モラル教室を行いました。学習で学んだことを活かしたり、ご家庭でルールを決めたりするなど、学校と家庭が連携して取り組んでいくことが大切だと考えます。ご協力、よろしくお願ひします。

自由記述欄一部抜粋【ご家庭でのお取組等】

- 夏休み中はゲームをする時間がありましたら自分でタイマーを使って時間を決めていました。
- 手伝いや親から見て望ましい事(早く宿題をやる、帰宅後すぐに明日の学校の準備をするなど)をしたらポイントを付けるようにしました。ポイントカードも作って貯めたら何かする(動画を見てもよいとするなど)ようにしたらすごくよくやるようになりました。
- やるべき事、やりたい事、話し合って決めてから努力と工夫する姿が見られて嬉しいです。
- 毎日の宿題をただやって終わりではなく一緒に考えながら取り組む事で、苦手だった算数を楽しみながら理解を深める事ができました。
- 担任の先生との面談で、先生が我が子のことを褒めていたことを、我が子に伝えたら、すごく嬉しそうにしていて、もっと頑張りたい、良くなりたいと張り切る様子が見られました。子どもにとって先生の存在は大きいなと改めて思いました。
- 1学期は学校生活に緊張や不安が大きかったようですが、担任の先生やお友達のおかげで2学期から毎日楽しく通ってくれており感謝しています。
- 学校に困りごとを訴えられないタイプの子どももいます。
- 下校時通学路を守っていない児童を学年問わず見かけます。
- 毎日安心して学校に行けていません。その他の願いは、チャイムをつけてほしいです。
- 前回の学校評価アンケートより、大分答えやすいアンケートだと思いました。アンケートの回答選択肢に「わからない」が欲しいなと思いました。我が子のことは分かるのですが、対象が「子ども達」になっているので、頻繁に学校に関わっていない私のような保護者にとっては3-12の設問は答えづらいです。ただ、例えば自分の子どもの利益ばかり考えて学校のやり方等に意見される保護者の方が一部おられるのなら、設問にこたえることが、京極小学校全体の子ども達のことを考えることにつながるのかな、それが設問のねらいなのかなと思いました。

学校運営協議会のみなさんより

3月3日(月)に第3回学校運営協議会理事会を開き、後期学校評価アンケート結果をもとに、ご意見をいただきました。一部抜粋してまとめたものです。

- 学校評価の保護者の自由記述に宿題のことがあったが、今、取り組んでいるような宿題はこれからも永遠に続くのだろうか?子どもたちがどんなことを学びたいか自分で考えて取り組んでいけるようになっていけたらいいなと思う。
- 共働き家庭が多くなり、家庭で子どもを見るというのがなかなか難しくなってきていて。兄弟も少なくなってきて、コミュニケーション能力が低くなっている。豊かな心を育成するためには、地域が子どもたちを育てていかなければならぬと思う。
- 今の日本の教育は進歩していくうえで進歩していないように思う。もっと文化芸術的なことをしていけばよいと思う。
- 京極の町に興味をもてるよう、「京極検定」などの取組をしたり、京都の通り歌や百人一首などを教えてようと、地域ができるところをこれからもしていきたい。
- 働き方改革と言しながら、教職員も子どもたちも時間がない。教育のカリキュラムを工夫するとよいと思う。